

みのEDO

発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会
TEL 0572-43-2141
発信：多治見市・笠原町東京情報局
TEL 03-5225-6863

特集

「伝統と革新」を象徴する 茶室庭の美しい水辺を タイルが再現——

「ものづくり・匠の技の祭典 2016」で活躍するタイル技能士たち



茶室 全景

「日本を代表する匠たちが東京国際フォーラムに集い、日本を支えてきた伝統的な匠の技と最先端のものづくり技術の魅力を発信」——

キャッチコピーにそう銘打って、今夏、東京都が中心となった初めてのものづくりのビッグイベント“ものづくり・匠の技の祭典 2016”が有楽町の東京国際フォーラムを会場に開催された[8月10日(水)～12日(金)]。東京都タイル技能士会(金澤久雄会長)は東京都技能士会連合会のメンバーとしてブース出展し、多くの来場者に向けて「モザイク体験教室」や「タイルアートの展示／制作実演」を実施したほか、特別プロジェクトとして

展示された「組立茶室 匠創庵」の茶室庭の水辺をイメージしたタイルデザイン制作にも全面的に協力した。

イベント全体の構成は、①テーマ展示(日本家屋の棟上げ、匠の茶室でのおもてなし、下町ボブスレーなど)、②ステージパフォーマンス(左官職人 挾土秀平氏による実演、いけばな、きものファッションショーなど)、③体験(さまざまな匠の技体験コーナー)、④展示・販売(匠の技の作品や伝統工芸品、各地の逸品販売)の4つで展開されたが、そのうちタイルを中心とした話題ここではレポートする。



茶室 外観



茶室 外観



美しい水辺をタイルで表現



「匠創庵」扁額と組子壁



茶室 外観



茶室 待合のタイル

「伝統と革新」の組立茶室・匠創庵

匠創庵は、日本の伝統的建築技法の集大成である数寄屋造りの組立式茶室で、設計者（椿建築デザイン研究所）をはじめとし、さまざまな分野の技能者（職人）の技を結集して制作された。裏千家千玄室大宗匠から庵号をたまり、「匠創庵」の扁額が掲げられている。

組立式茶室は、豊臣秀吉が合戦の際などに戦場にまで持ち込んだと伝えられるそうだが、小間には組子壁を用い、茶室周りには水面をイメージしたタイルを配し、苔

むした岩を配した庭園、蹲（つくばい）を擁した、斬新かつ古式ゆかしき「伝統と革新」を象徴する茶室が出来上がった。

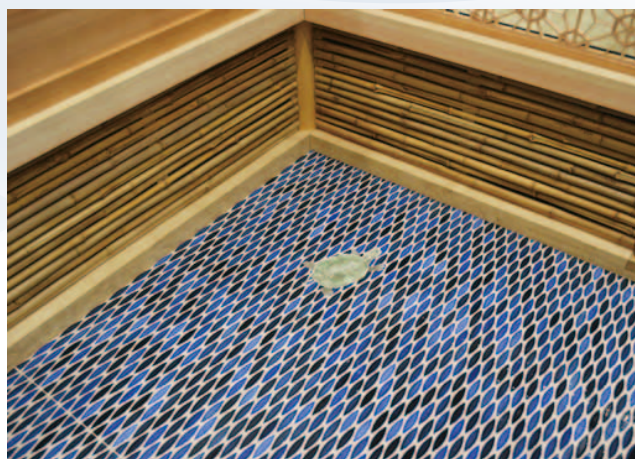
匠創庵のパンフレットには、「椿建築デザイン研究所がめざす『ものづくり』は、伝統技術と最先端技術の交差によって、常に新しいスタイルを生み出すことへの挑戦です。日本の誇る『伝統』と時代に即した『革新』との出会い、そして調和。この積み重ねこそが、未来への架け橋なのです」と記されている。



水辺のタイルに亀の創作が！



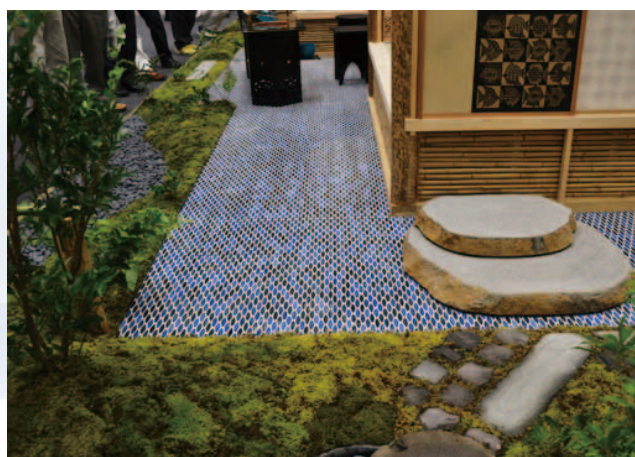
茶室 主庭



茶室主庭の亀の創作タイル



水屋入口



にじり口

水辺をタイルで再現する！

伝統と革新を具現化する——これが、なかなか難題だった。今年5月下旬に立ち上がった茶室プロジェクトでタイル制作を担当することになった東京都タイル技能士会は、制作一式を賛助会員の(株)梅村タイル店・Tile

Style 深大寺のタイルスタイリスト、上野京子さんに一任した。上野さんがデザイン制作の指揮をとり、練達のタイル職人・安藤 健 氏、門脇英明氏が招へいされて、制作チームが組まれた。

制作課題は、伝統的な日本独特（国産）のタイルを使っ



前日の茶室組上げ



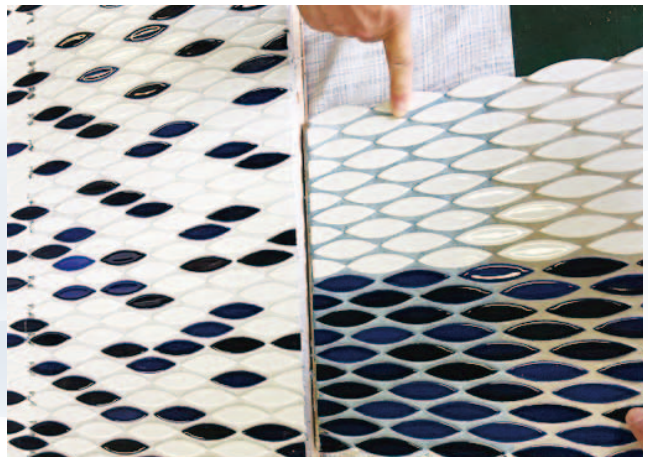
作業場での仮組み作業



作業場でのタイル制作



作業場にて (左より安藤氏、上野氏、門脇氏)



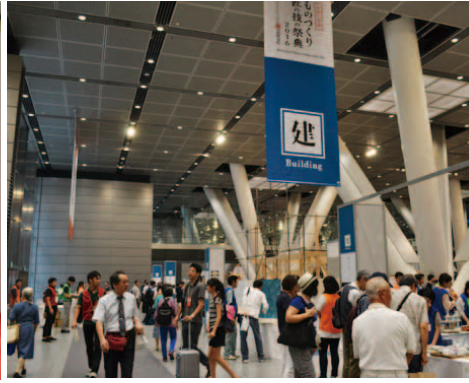
タイルデザインの見本張り

て茶室と庭を引き立てる美しい水面を再現した現代的なタイルデザインである。タイル張り見本、デザインサンプルは何度出したことだろうか。そして難題はもう一つ、極めて短い制作期間（正味2ヵ月弱）と組立式に対応できるタイルパネルの作成だった。これを連日連夜に及ぶ集中作業と連携プレイで乗り切った。約 20㎡、タイル

パネル 33 枚が完成して、各職種が集って開会前日に茶室が組み上がった。関係者から歓声が上がり、来場者の評判も高かった。設計デザインの総責任者・椿 邦司代表からも快哉の言葉があった。面目躍如。一面には門脇氏制作のモザイクオブジェの労作（亀）もひそやかに据えられている。



左官 挾土秀平氏による実演



匠の技の祭典：体験ゾーン



モザイクアート作品の展示



東京都タイル技能士会：体験コーナー



モザイクアート体験指導



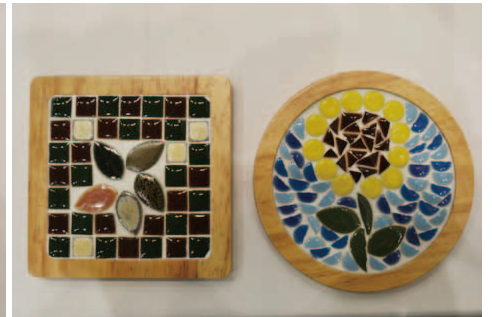
モザイク作品の目地つめ



参加者 完成作品



参加者 完成作品



参加者 完成作品

大盛況のモザイク体験

一方、ものづくり体験コーナーでは、東京都タイル技能士会が「モザイクタイルによるアートコースター制作」の体験指導を来場者向けに実施した。

こちらはイベント会場での実施なので、10cm角・丸型の木製コースターをベースに既製品の10mm角・丸やリーフ、ハート、クローバーなどのモザイクタイルを思い思いの表現で配置し、ボンドで張って楽しんでもらうというもの。最後の目地つめはタイル技能さんたちがフル回転で行ない、体験料金は1つ300円。ほとんど原価にも届かないが、参加者にとってはリーズナブル

な価格だったようで、連日来場者が引きも切れず1日100人以上が制作体験し、合計約350人が完成したモザイクのマイコースターを持ち帰って行った。

展示した精緻なモザイクアート作品にも来場者の関心は高く、最近のカルチャーセンターなどでのモザイク教室等の盛況などと同様に、一般の方のモザイクタイルへの人気はかなり高い。こうしたムーブメントを業界としてはさらに盛り上げ、タイルを暮らしと住まいに取り入れてエンジョイする文化を高揚させていく手だてが必要ではないだろうか。

道塚小ワクワクするスクール



東京都タイル技能士会 制作指導 (道塚小)



目地つめて完成するモザイク作品



タイル講話とモザイク制作の説明 金澤会長



完成したモザイク画作品



楽しくモザイク制作の指導を心がける



完成したモザイク画作品



熱心に制作に取り組む作業風景



出来上がったマイコースター

夏休みモザイクワークショップも洗刺と！

東京都タイル技能士会では、東京都職業能力開発協会の推進する“ものづくり体験学習”の一環として「モザイク体験教室」の指導にも熱心だ。この夏は特にものづくり学習に熱心な大田区の道塚小学校（長谷川紀子校長）と矢口小学校（余郷和敏校長）で夏休みワークショップの高学年生向けに「タ

イルモザイクによるコースター制作」の体験指導を行ない、多くの子どもたちが懸命にモザイクアート作品づくりに取り組んだ。

○道塚小ワクワクするスクール；7月23日（土）参加者・小学高学年 35人

○矢口小サマーワークショップ；8月20日（土）参加者・小

矢口小サマーワークショップ



東京都タイル技能士会 制作指導 (矢口小)



目地つめて完成するモザイク作品



タイル講話とモザイク制作の説明 金澤会



完成したモザイク画作品



楽しくモザイク制作の指導を心がける会



完成したモザイク画作品



熱心に制作に取り組む作業風景



出来上がったマイコースター

学高学年 45 人

両校とも 10cm角・丸型の木製コースターにカラフルな 100mm角内装タイル(在庫品)をく切りを用いてカット(加工)してボンドで張付けてゆくもの。子どもたちがモザイクを張り上げた後の目地つめは技能士さんたちが行ない、子どもたちはきれいに仕上がってゆく様子を興味津々に見つめながら、

完成した作品を嬉しそうに持ち帰った。

「いずれにしても親子づれにタイルの魅力やモザイクアートの楽しさを体験してもらい、やがてタイルに愛着をもってもらえれば」(金澤会長)と、タイル普及活動をとおしていずれ未来にタイルの花が開くのを期待している。